

「愛・地球博」会場周辺水辺ガイドマップを作成しました

万博来場者に「愛・地球博」会場周辺の川を知ってもらい、
水環境と人との関わり合いを深め、
自然を大切にする気持ちを育むため
「愛・地球博」会場周辺水辺ガイドマップを作成しました。



ガイドマップは、持ちやすいA6版フルカラーで、紹介する川は、瀬戸会場周辺は**矢田(やだ)川、篠田(しのだ)川、北海上(きたかいしょ)川、海上(かいしょ)川、屋戸(やと)川、吉田(よしだ)川**の6河川、長久手会場周辺は**香流(かなれ)川、堀越(ほりこし)川**の2河川です。

それぞれの川までのアクセス、川に沿った散策路などをイラストで説明し、それぞれの川について、見開き2ページにわたって、「生き物と環境」、「リバーストーリー」と名付けた2つのコラムの中で歴史、見所、特徴、生き物、植物などを紹介しています。また、海上砂防池(瀬戸大正池)の風景、シデコブシ、ヤブカンゾウなどの四季の花や、カワヨシノボリ、カワムツなどのこれらの川によく見られる魚、鳥などの写真も豊富に掲載していますので、見るだけでも楽しいものになっています。作成は地元で川の調査や保全活動を行っている「名古屋市水辺研究会(会長: 國村恵子)」と愛知県がNPOと自治体との協働という新しい形で取り組みました。このガイドマップは、万博会場(長久手会場森林体感ゾーン内ビジターセンター、瀬戸愛知県館)のほか瀬戸市役所、長久手町役場、愛知県内8カ所の県民生活プラザ、県内7つの県事務所、愛知県庁環境部水環境課において、無料で配布しています。

ガイドマップは日本語版のほかに外国からの来場者用に、英語版、韓国語版、中国語版も作成しております。



【問い合わせ先】

愛知県環境部水環境課

〒460-4025 名古屋市中区三の丸3 - 1 - 2

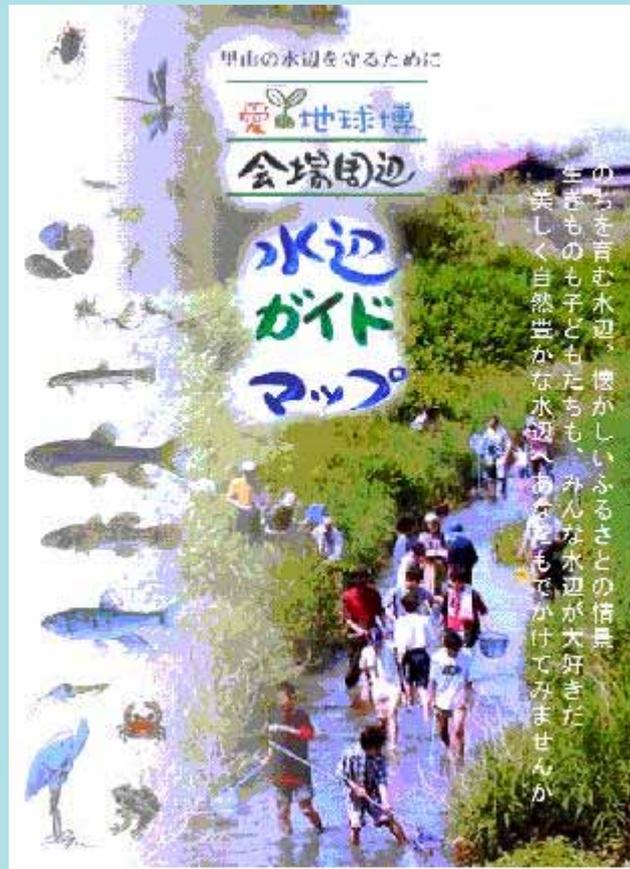
電話 052-954-6221

FAX 052-961-4025

E-mail mizu@pref.aichi.lg.jp

[次のページからは内容の一部です。](#)

ここではjpegのため画像が不鮮明になっています



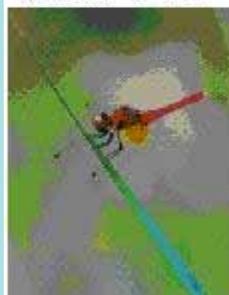
次

水のコトバが聞こえますか？

なつかしい『ふるさと』の情景…そこには必ず里山と小川があります…

昔はあたりまえのようにいたホタルやタヌキ、ドジョウやタニシ、サワガニやオニヤンマ……それら水辺と里山の生きものが、いまもけなげに暮らしているのが海上（かいしょ）の森です。この森は、源流域では春にシデコブシが咲き、水辺では初夏にゲンジボタルが飛び交い、湿地では夏に小さなハッチョウトンボが舞い、上空をオオタカが羽ばたく、自然豊かな生きものたちのふるさとでもあります。

また、長久手町には広々とした田園風景のなかを流れる川や鎮守の森があります。水辺の生物や環境から、その川の姿が見えてきます。このガイドマップでは、愛・地球博会場周辺の8河川を紹介しています。せせらぎの音を聞き、水遊びを楽しみ、トンボや魚を追いかけて、水辺に親しんでみてください。命を育む水辺で『ふるさと』を体感してください。きっと……あなたにも、水辺からのメッセージが届くはずですよ。



↑ハッチョウトンボ



↑メダカ



↑ 吉 田 川 源



↑ ミミカキグサ



行かなければ出会えない、遊ばなければ見つからない、水辺のすばらしさを体験してみてください。川を歩けば見えてくるものがあります。あなたの身近な川は元気ですか。川は、その地域の文化水準のパロメーターです。環境をテーマとした万博、それは「自然の叡智」。このガイドマップを手に、会場内だけでは味わえない、出会えない本当の自然、あるがままの自然に見て触れて感動してください。21世紀を生きる子ども

水辺の生きものとは…

魚・貝・甲殻類は一生を水中で過ごしています。昆虫のなかには、幼虫期を水中で過ごし、水の外へと羽化して成虫になっていくものがあり、それを水生昆虫と呼んでいます。トンボ・ホタル・カワゲラ・トビケラ・カゲロウの仲間たちがそうです。これらの生物は、清流を好むもの、汚れた水を好むものなど、それぞれの環境に適した水辺で生活しているので、何がどのくらいいるか調べることで水質を知ることができます。これらの生物を『指標生物』といいます。

魚も水質・流量・川の形によって、棲み分けをしています。清流や淵を好み、水生昆虫が多く、水辺に植物があるところにいるカワムツ、水田・溜池・湧水とつながる水辺に棲むドジョウ類などです。

このガイドマップでは「生きものと環境」「リバーストーリー」として、8河川の概要をわかりやすく紹介しています。河川別生物種一覧では『指標生物』を基本に掲載していますので、それらの水辺環境を知ることがかりとして活用してください。



↑海上砂防池（瀬戸大正池）



水辺観察のマナー

昔の水 トンボとホタルと
里山と

海上池域には学術上貴重な動植物が数多く見られます。一本の植物、一匹の虫が、その生態系を維持し、自然景観を築いています。動植物の採集はやめましょう。また、湿地の動植物は踏みつけに弱いので、立ち入らないようにして下さい。

きれいな 川で 遊びたい。

ゴミは捨てずにお持ち帰り下さい。食べた後の食器も水場や沢の水で洗わずに、すべて紙で拭き取って、持ち帰って下さい。また、トイレは決まった場所ですませて下さい。里山の水は貴重な水ですので、汚さないで下さい。

生きもの いっぱい の 川が 好き

川でガサガサをして魚んだり、水生生物の観察をしたあとは、かならず川に戻して下さい。ブラックバス、ブルーギルは、もともといる在来魚を駆逐してしまいます。水辺の生態系を攪乱するので、外来種の持ち込みはやめて下さい。

北海上川



生きものと環境

春は目覚めの季節。陽あたりのよい沢筋では、まずサクラバハハンノキが、次いでショウジョウバカマの花が咲き、毎日勢よく森は彩を変えていきます。渓流ではタゴガエルが鳴き、ニシカワトンボが羽化してきます。渡り鳥のオオルリ、キビタキ、サンコウチョウがさえる頃になると、水辺は新緑に包まれます。森と水辺の豊かな生態系が夏鳥の子育てを支えているのです。夏、都会ではうだるような暑さでも、海上の森は涼しく、水温も28度を越えることはありません。雪のようなミズタマソウ、黄色いアゼオトギリの花が咲き、秋に羽化するアオイトトンボや成虫で越冬するホソミオツネントンボが草にとまっています。森の妖精のように可愛いキノコが生え、モンゴリナラのドングリも目立ってきます。深まりゆく秋の森に、カケスの声が響きます。静けさを増す川では、石や落葉の陰でカワヨシノボリの幼魚やサワガニの子が育っています。厳しい冬を前に命のバトンを受け渡してゆく自然のいとなみに、長敬の念を抱くことができたなら、あなたは今、ナチュラルリストの一員です。



↑ピッコロのように軽快にさえずるキビタキ

リバーストーリー

北海上川は標高約300mの物見山北麓を水源とし、流路延長約2kmの変化に富む川です。ミズゴケや木の根元から湧き出した水は、幾筋もの沢となり、やがて山間の渓流となって池に注ぎ、下流では見事な6段の滝となり、四ツ沢で海上川に合流しています。川底は砂れきで、落葉が石の下に溜まっています。カワゲラ、カゲロウ、トビケラなどの水生昆虫にとって落葉は大切な役目をもっています。彼らは落葉やそれについた藻を食べたり、身を隠す場としたり、棲み家としても利用しています。それらの水生昆虫は清流の指標種で、カワムツやヤゴの餌となっています。汚れた下流の都市河川にとって上流の森から生まれる水は、貴重な清流です。海上の森の水辺のみずみずしい感性と優しい気持ちを取り戻してください。心の片隅に忘れていた懐かしいふるさとの景色がここにはあります。



↑成虫で越冬するホソミオツネントンボ



↑落

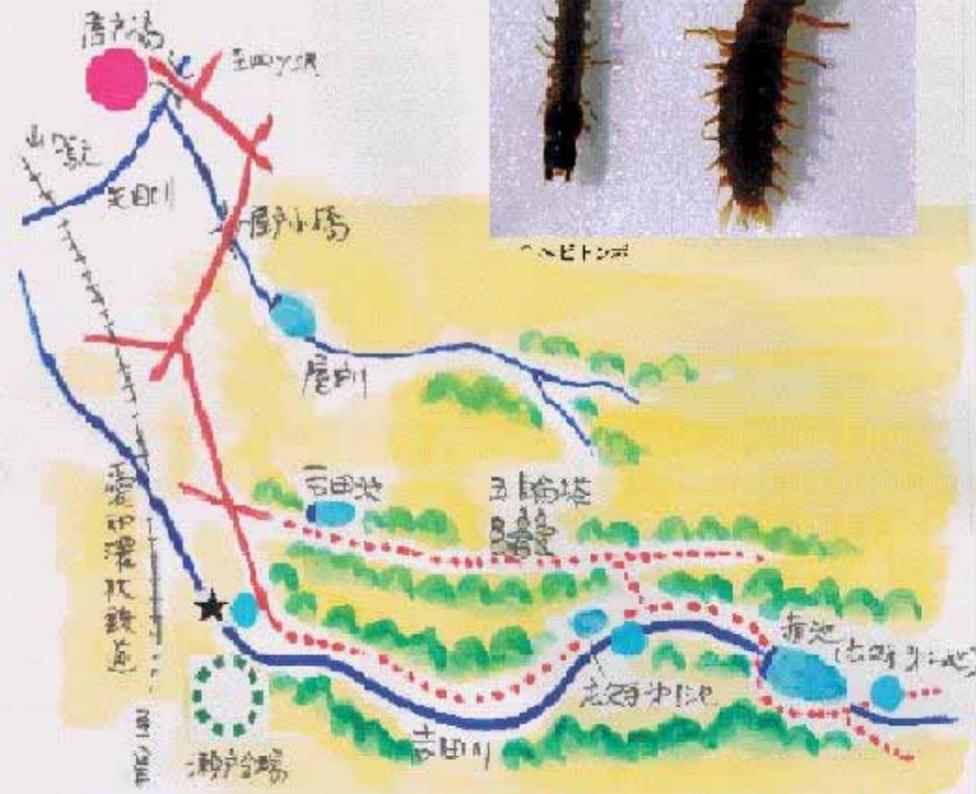
河川データ

水のきれいさ
 水質の豊かさ
 生きもの多さ
 長さやすさ

水質—きれい
 水量—少ない
 川幅—2m

主な生きもの
 カワムツ・サワガニ
 ミルシヤンマ・オニヤンマ
 ニシカワトンボ
 ヤマトフタツメカワゲラ
 マダラカゲロウ・ガガンボ
 トノサマガエル

吉田川



ヘビトンボ

生きものと環境

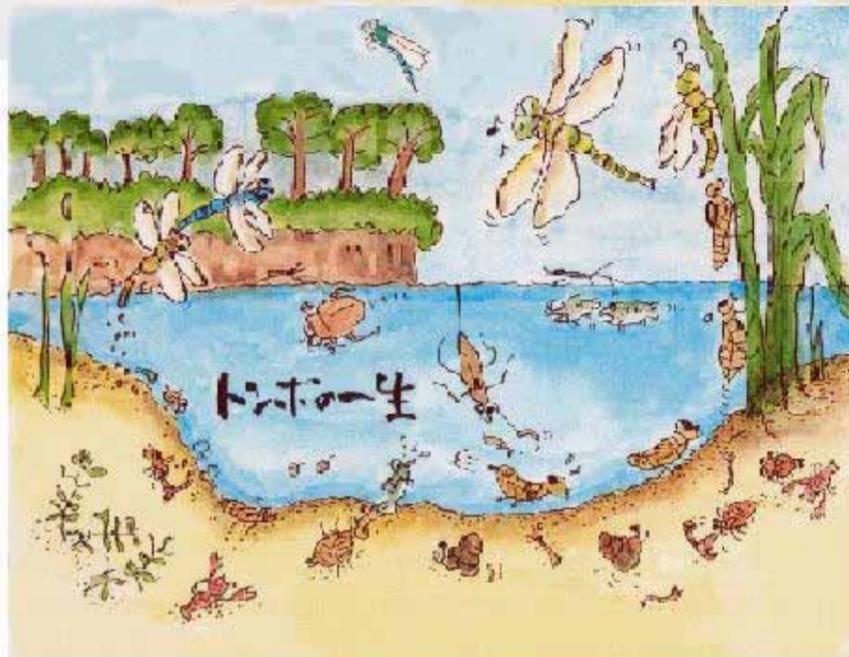
吉田川は淵にカワムツが潜み、瀬にオイカフが泳ぐ魚影の濃い川です。季節ごとに川沿いや池の周辺にトンボが多く見られます。春は渡りついたばかりのキビタキやヤブサメの音がこだまし、シオヤトンボ、サナエトンボ仲間が葉の上で休んでいます。この川には、もともとゲンジボタルが多く、梅雨時のむし暑く風のない夜に飛び交う光景は、見る人の心にもほのぼのとした灯をともします。工事の影響はあったものの、生き残ったホタルは子孫を残そうと懸命に光でコミュニケーションをとりあおうとします。採集と光は禁物です。散策路の上にはオニヤンマが、流れの上にはコシボソヤンマがパトロールしています。晩夏にはタカネトンボやオオルリボシヤンマが目につきます。広久手第二池（赤池）では、ヒツジグサが咲き、モノサシトンボやクロイトトンボが水草にとまっています。秋には湖面にタカノツメやウリカエデの黄葉が鮮やかに映し出されます。



↑ルリ色の目が美しいオオルリボシヤンマ



↑人の気配がするとすばやく隠れるカワムツ



リバーストーリー

愛・地球博瀬戸会場の東側に接して北へ流れている川です。会場から上流は川谷の平坦な歩きやすい故策路になっています。広久手第一池を過ぎ、しばらくせせらぎの音を聞きながら木洩れ日の道を歩みます。赤池はいつ訪れても静かで、ウグイス、イカル、カケスなど野鳥の音が響いています。「汚さず、壊さず、とらず」を心掛けて楽しんでください。

会場から下流部では、2002年から河川改修工事が行われました。上下流の主物の移動に配慮した透過型の堰堤、自然石を空積した護岸、魚の移動を考えた魚道などの施設があります。自然環境に配慮した沙防工法に関心のある方は、ぜひ吉田川を瀬戸会場周辺から下流に向かって歩いてみてください。

河川データ

水のきれいさ

交通の便の良さ

生物の多さ

緑の豊かさ

水質-ややにごる
水量-少ない
川幅-3m

主な生きもの
カワムツ・ホトケドジョウ
オイカフ・コシボソトンボ
ヤブヤンマ・オニヤンマ
サシグニ・マルタニシ
カワニナ

香流川

長久手会場周辺



生きものと環境

長久手町役場近くから川沿いの歩道を歩いてみてください。鳥たちのにぎやかなさえずりが聞こえてきます。川岸や中洲には春に白い花が咲くカワデシヤやオオバタネツケバナ、秋にはミゾソバやヤナギタデなどが咲いています。香流川はさまざまな水生生物が観察できる川です。オイカワ、カワムツ、ヨシノボリ、メダカなどの淡水魚や、イシガメ、ツチガエル、モクズガニ、スジエビ、ヌマエビ、アメリカザリガニなど種類も多い水辺です。夏にはハグロトンボが多く飛び交い、カルガモやコサギが水辺に舞い降り、カワセミがツチーと鳴いて素早く飛ぶ姿も見られます。川のまわりには里山、水田、溜池が多く残っています。生活排水も流入しているため、ヒルやサカマキガイもいます。



↑さまざまなトンボのヤゴ



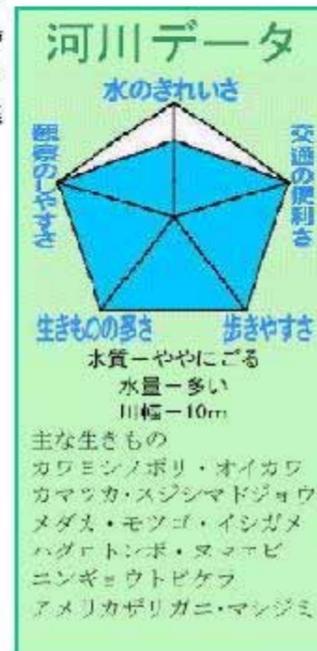
↑サカマキガイ

リバーストーリー

香流川は三ヶ峯を源流として長久手町を貫いて流れ、名古屋市内で矢田川と合流します。上流では川沿いを歩きながら自然の風景が楽しめます。歴史ある多摩神社で一休みするのもおすすめ。緑に囲まれながら鳥のさえずりに耳を傾けていると、ほっと息、心が落ち着くことでしょう。また愛・地球博会場のすぐ横には砂防公園があり、ここも親子で楽しめます。



↑ほほえましいカルガモファミリーの姿も見られる香流川



きびしい冬を越した生きものが動き始め



白上の森の静かなピンクに施めスデコブシの花ではじまる



動き出したキズコを獲らズリ



春の

みずみずしい新緑のときをむかえる初夏の



同時の訪れる生徒とずるハチウマが獲



水辺に咲くカワヂシャの花



草の上で光るゲンジボタルの翅



池で春一面に出現するクロスゲンジヤマト



湿地で最初に羽化するハラビロトンボ



ハルシンドウやほ日



高田池に暮るチヨウトクボ



川岸でも繁殖者となるヤブカンゾウ



清流で羽化するツミキワドリの子ガサ



川沿いの岸に多いシロカサガサ



作野園で一杯み



薄山の深淵で羽化するオホササガ



四月に産卵したウツクサシノウの幼魚



草の上で舞う



ヒメソコグサの花にこがれ草の葉



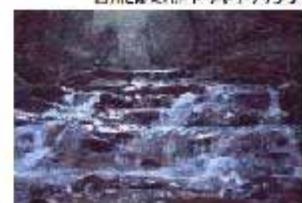
水辺で多く咲くヒメソコグサ



魚



先よびり太めの水トケドリを守らう



北海上川にある穴殿の滝



亀

